

## 学園都市折尾開発会議代表

中川 昭之

### 『フレスター』記念特集号の

『フレスター』50号特集記念号の発行、誠にありがとうございます。これも常日頃からの関係各位のご尽力の賜物と心から敬意を表します。

現在、折尾地区の更なる発展・活性化のため、地域住民による取り組みと行政主導による「折尾地区総合整備事業」が進められております。

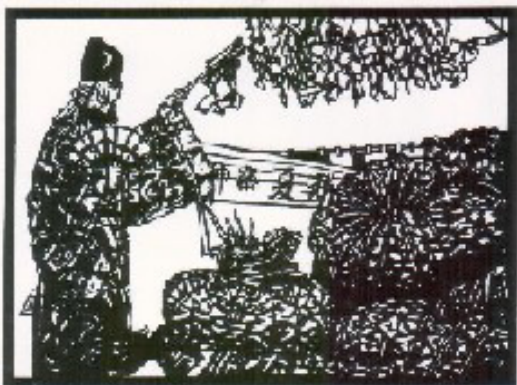
大正5年に完成した折尾の玄関口である折尾駅舎も、今秋には解体の予定であり、それに伴う駅前周辺を整備等で学園都市折尾の街が大きく変望致します。

住民が主役であるやさしい・あたたかい、そしてこの魅力あ

る折尾の街づくり推進のため、

私も「おりお未来21協議会」の会員として参画させて頂いており、今後も微力ながら皆様と一緒に頑張っ行って行きたいと思っております。

最後になりますがこの機関紙「フレスター」が長期的視野に立ち、情報発信の媒体となり、100号・200号と今後一層発行出来ますことを祈念申し上げます。



折尾神楽 夏越祭 大蛇

こすげのりかす

## 則松市民センター館長

廣瀬 喜一

### 『水と緑ともてなしの街に』

私が「おりお」という名前を耳にしたのは、もう半世紀近く前、小学校高学年の時。

生まれ育った田川での神幸祭の折のバナナのたたき売りでした。調子よく、少し卑猥で大人の世界を垣間見るような口上に引き込まれたものです。

その折尾の駅に始めて降りたのは昭和45年。

第一印象は、何と複雑怪奇な構造であることかということでした。駅を出てみると、汚れた堀川とお世辞にも綺麗とは言えない街並みですが、活気はありました。

街に活気があるのは魅力です。活気を生み出すのはコミュニケーション・心のつながりではな

いでしょうか。

かつて、海老津の街中が車の渋滞で混乱していたとき、バイパスの計画が持ち上がりましたが、商店街の方たちの反対で遅れたと聞きました。また、小倉のモノレールも駅への乗り入れについて魚町商店街の反対で、途中で客が降ろされる事態になりました。

商いをする人が自分本位になると客は離れます。大型ショッピングに対抗する手段は心のふれあい、「おもてなし」が大切ではないでしょうか。

幸い折尾は学園都市として若者が多くいます。折尾の街に若者と中高齢者を対象とした店が、特色を持って点在する。店はお客様と和やかに話し、そして水と緑があり安らぎを覚える場所となれば、自然に行ってみたくなると思います。

折尾にはその可能性がいっぱいありそうです。